

**（1）学習の状況と課題**

- 1年** 被服分野は、身近な課題の分野で、関心・意欲をもって授業に取り組む生徒が多い。一部の生徒に道具の取り扱いや作業経験の違いによる技術差や速度差が出ているが、この差を縮めていくことが課題である。また、授業時の発言・発表をより多くの生徒が積極的に参加できるようにさせていくことが課題である。
- 2年** 食物分野は成長期の大切な時期である意識を高め、栄養素のはたらき、中学生の必要摂取量の知識を日々の食生活において、応用実践させる指導を行った。関心を持って授業に取り組む生徒が多く、アンケート結果からも、生活に生かしている生徒が過半数を超えていることがわかった。食生活の重要性を意識できるようにさせることが課題である。
- 3年** 保育分野では、乳・幼児期の心身の発達に、自分の幼い頃を振り返らせながら授業を進めた。幼児と触れ合う機会をもっていない生徒が多く、知識を習得しても体験学習に結びつけられないため、深く理解できるようにさせることが課題である。

**（2）指導改善の観点（課題解決のための具体的な授業改善策）**

- 1年** 被服製作を通して、習得した知識を技術として定着させ、実生活でも活かし技能を高めさせる。衣服・住居に関する調べ学習や実習を通し、結果を整理しレポートにさせ、発表をしよう活動を増やして関心や理解を深めさせる。
- 2年** 食物分野では、生命の維持、健康の保持増進、成長のために食生活の知識、技能がいかに重要であるかを繰り返し学習させる。自分だけでなく家族の健康的な食生活も考えられる知識、技術を習得させる。観察・実践・実習を通して家庭でも食生活、消費生活に関心を持ち、参加する意欲を育て、自立的に生きるための基盤を培う指導を充実させる。
- 3年** 保育分野・家庭と家族関係の学習を通して、家庭のはたらきについて理解し、家族の一員である認識を持たせ、さらに家庭や家族が社会の一単位として重要な役割をもっていることを確認させる。自発的に家庭や社会に参加する態度を養う。また、体験学習を通して、問題解決への道筋が自ら導き出せる力を養うために、生徒の活動場面の設定に工夫し、思考力や判断力を高め、自立から共生への能力を育成する。

**（3）指導方法改善のポイントと方策**

- 1年** 被服製作を通して習得した知識や技術を反復学習により定着させる。技術力の差はグループや個別指導によるきめ細やかな指導を取り入れることで改善する。生活の中の課題を解決するために効果的に考察できる家庭科ノートやワークシートを用いる。それにより生徒自身が、考え整理し発表する場を設定し、表現力や思考力、創造力を互いに高められるような指導を行う。
- 2年** 生命・健康・成長のために食生活の知識・技能がいかに重要であるかを繰り返し学習させる。調べ学習や調理実習など体験学習を通して習得した知識を生かし、技術力を定着させる。さらに、実習の結果を整理しレポートにし、発表しよう活動を増やし発言内容を相互で理解し考察させることで、思考力や表現力を向上させる指導を行う。
- 3年** 保育で取り上げ、学習した知識を保育実習（明化幼稚園にて体験学習）で実践することで再確認させる。調べ学習の課題をレポートにし発表することや絵本やおやつ・おもちゃを製作し、互いに鑑賞しあうことで幼児への理解・関心を深めさせる。また、自己と家庭・家族の一員としての自覚、周囲の人々との人間関係の大切さを具体的な場面設定を用いて指導し、自ら進んで家庭の仕事やボランティア活動などに参加できる態度を養う。